

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



科學は獨占を破る "Wissenschaft bricht Monopole"

鳥頭

一九三七年新春の讀書界にいち早く
新刊圖書として掲げられた書名の一つに
これがあった。

何んと痛快な題名であらう。吾等の躍
進すべき道を明瞭に示して居る。

此の書はアントン・チシユカの著作で
ある。「アントン・チシユカは」世界に
於ける日本」を書いて歐米讀書界に一大
センセーションを巻き起した維納知名の
論客である。此の書には新ドイツ四年
計畫の技術的、世界經濟的背景を描いて
、世界が新しい原料と新しい土地を獲得
するためにいかなる科學戰を演じてある
かといふ事が書いてある。

必要な原料を全部自分で持つてゐると
いふ國は今日ない。多くは原料を他國に
仰いでゐる。然るに最近の科學は各國の
原料の獨占を破つて新しい技術上化學上
の原料を發達させた。チシユカはこの新
化學原料の可能性に就て色々本書に書い
たのである。これはどの國家にとつても
特別重要な意味を持つてゐると云へる。

新人工原料がどれ程大切なものである
かは、伊工戰争で、伊太利が列國から制
裁を加へられて原料の輸入が不可能にな
つた時示された。伊太利に於ける此の事
件は將來どの國家に起るか知れない。

○ 新刊廣告から想うた記事引用する
につけても母校の事が思はるゝのである
日に新なる業績を積んで進む事を知ら
ぬ母校諸先生を中心とした二十数年の歴
史が物語る通り、永劫に蠶絲業の先導と
して母校のウィッセン シヤフトが、光
輝を放つてあらう事は、今更此處に云ふ

和清山香 編者 兼人 所行 校學 門專 市上 市嘉 所刷 會 町町 町山 所 所 所 所

迄も無い。
長い歲月此の門を出て現に斯界に活躍
しつゝある諸君！ 母校の傳統が育成し
た昂然たる氣概を確保し「ウィッセン
シヤフト」プリヒト、モノポール」と高
く叫びながら、歩み一歩しつかりとした足
跡を斯業界に印さうではないか。

○ 篠田理學博士等の名著「大生物學者と
生物學」には、アリストテレス以來わが
生物學界に偉大なる足跡を残した生物學
者を列記して、われ等後學に盡きぬ示唆
を與へて居る。同書中日本生物學者サイ
ン集を克明に探して見たら、懐しい「八
木誠政」の四字を發見した。

○ 千曲會員には珍しい、そして嬉しい、
頼母しい見参である。物は見方だが虚心
坦懐に考へて見て千曲會員に、是れ以上
の刺戟があらうか。

○ 「科學ペン」五月號のドラマに出て來た
現代の平賀源内八田先生の八田は八木で
あると直感したがヒガ目か。「昔」の科學
から害虫驅除法に對する獨占を破らうと
してゐる八木理學博士が躍如として思ひ
込ぶのである。

○ 本邦人絹工業界の寵兒なりと聞く「加
美好男」の名を見逃してはならぬ。加美
氏こそ「ウィッセン シヤフト」プリヒト
モノポール」を敢然と受けつぎ快男兒で
ある。往年東寮の第三號室あたりで、デ
カンショの猛者だつた氏が、今日の盛名
を走するに至つたのは偶然ではない。氏
の持つ「ウィッセン シヤフト」は、全
くのネバリであつた。

○ 冒頭の書名通りに活躍して居る千曲會
員二人を試みに發賣第三回から見本
の爲め、拉し來つた迄である。これより
古く又新しく他の年度にもまだ「勇士
が居る筈だ。勿論老若を問はず。科學に
は他く迄その可能性を尊び度い。やれ！
やれ！ うんとやれ！

○ うんとやつて其の存在を明瞭にするに
はアルバイトだ。
由來母校に千鈞の重味を添へて來たの
は「蠶絲學雜誌」と「日本蠶絲總覽」だ。
この二つは内容外觀共將來永續させ度い
ものだ。

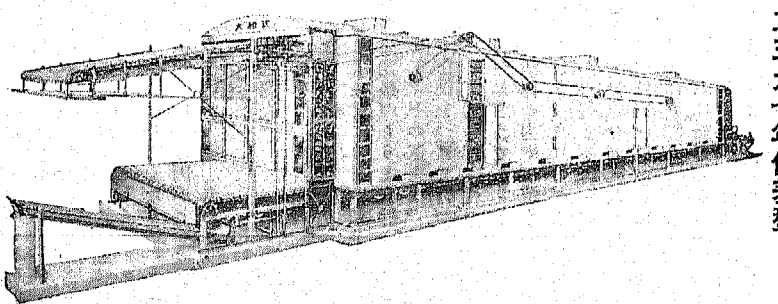
○ その昔開校當時新進氣鋭の諸先生達は
其の業績のオリジナリチーを確立する爲
めに思ひ思ひの方法を執つた。學校の名
を冠した發表形式はかなりマチマチであ
つた。プリントが不統制である場合は其
の内容迄不統制のやうに見ゆるのは當然
の事である。然して「蠶絲學雜誌」が刊
されるに及んで漸く登載論文を通して吾
が校風を偲ぶ事が出来、校友のイズムを
さへ見出す事が出来る様になつた。

○ 近來一定しかつて居る黄表紙の「蠶
絲學雜誌」に對しては、かなり好評噴々
たるものがあつて、是れを模倣せんとす
る向きさへあるほどである。此の點は編
輯當事者に敬意を表する次第である。

○ 黄表紙なんて云へば文學者には、變つ
た連想があり何かセリフもつくか知ら
ぬが、先づ千曲會に誇らしいものだ。十卷
紙を今通り永續させ度いものだ。十卷
となるのを好機として、小型にして何ん
のかんのか、改造の目論見が樹てられて
居るかに聞くが、なるべく傳統を破り度
くないものだ。街頭に賣らるゝ大衆物が
よくやる目先きを替へる事など全然無用
だ。先づ「今」のまゝ、何百巻も永續させ
て、名實共蠶絲界のリーダー格に仕上げ
度いものだ。「蠶絲學雜誌」の經營を引
き受けるやに仄聞してゐる桐室君に、こ
の點シツカと頼み度い。

○ 過古十年「蠶絲學雜誌」が十分に活躍
したのには、一方に於て極めて和やかな
「千曲時報」があつたからだ。
じき百巻にならうとしてゐる千曲時報
もたしかに成功して居る。研究成績と雜
文と混線させぬ事にした、十年前の計畫
は實にすつきりしたものであつた。
時報も亦氣まぐれな模倣者なんか考へ

現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



【各種型録贈呈】

一五九七年代表型

製作發賣元 株式會社 大和三光商會
東京京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋(56)五三二〇番

營業課目
特許大和式自動輸送乾繭機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許帶川三光式乾燥機
特許やま十式ホ
特許サンコー式瀘過淨水裝置
特許サンコー式廢湯吸熱器
特許サンコー式高壓ポンプ
特許サンコー式

ないで、今の形式下にベストを盡して見
て貰ひ度いものだ。形式なんか問題で無
いと云つて了へば夫れ迄だが、昔ながら
しい母校を思ひ返せば、一貫した母
校黨同窓黨を感するのには、氣まぐれに變
更された形式下に引き廻されるよりも、
見るからに懐しい黄表紙や時報に御厄介
になる事が、どれ位快心の事が判らん。
と云つたやうな頑固な執着振りを發揮し
て居る會員も居ると云ふ事を序でながら
吹聴して置く次第である。

○ 雑誌、總覽、時報各々、体裁は一定に
し度いものだ。校友會雜誌、學術報告、
同窓會報等が腹だ、しい程きまぐれな變
化をして居る昔に逆戻りせぬ様に願ひ度
い。そして必ず定期に刊行して貰ひ度い
。特に雑誌に御努力を願はねばならぬ。
何號が何時出るからと、計畫して投稿し
て居るのに、半歳も遅れて了ひ、研究の
みはどん／＼進行して、さて次ぎの論文

○ あらゆる獨占を破つて止まぬ科學の、
創造を育くみ大成せしむる事に至大の、
關係ある千曲會定期刊行物に對して、一
言希望を陳べて本稿の結びとする。

講話ところ (八)

比較 警句 諸講集 千葉 高島 生

菅原道真公の歌に、「心だに誠の道に叶ひなば、祈らずとも神や守らん」...

朝日新聞社の神風が謳歌飛行の時、全国民が神かげ祈つたあの聲援は、飯沼...

賈札横行時代のお話——私の近所の床屋に、ある晩、黒の中折帽に黒オーバー...

馬鹿をみたのは賈札を掴まれた床屋ですが、一体この床屋はイクラ損をした...

昔ギリシヤの兵隊の中に、糸のやうに細い、病身の男が居りました。ソナ...

然るに今回その筋から眼をかけられて表彰の榮譽を捧ぎましたことは、誠に目出たことには相違ありませんが、兎...

桑の中から小唄も聞ける、小明も聞きなす顔見たや。之はドナタも御存じの伊那節の文句の...

第三の態度は、実行して見たら非常に結果がよくつたので、之からは之に限る...

第二の態度は、実行して見たが、結果が左程よくならなかつたか、一度で懲りたか...

第一の態度は、実行して見たら非常に結果がよくつたので、之からは之に限る...

桑の中から小唄も聞ける、小明も聞きなす顔見たや。之はドナタも御存じの伊那節の文句の...

養蚕の光五月號にあつた話ですが、二宮尊徳先生が下野の國で開業事業に従は...

聖徳太子様の養蚕訓の中にも「晝夜間斷なく精力を盡すべし」とある通り、養蚕を奮む上に於て、根氣よく精進努力することが、結局勝利を得るの所以である...

養蚕の光五月號にあつた話ですが、二宮尊徳先生が下野の國で開業事業に従は...

養蚕の光五月號にあつた話ですが、二宮尊徳先生が下野の國で開業事業に従は...

養蚕の光五月號にあつた話ですが、二宮尊徳先生が下野の國で開業事業に従は...

養蚕の光五月號にあつた話ですが、二宮尊徳先生が下野の國で開業事業に従は...

養蚕の光五月號にあつた話ですが、二宮尊徳先生が下野の國で開業事業に従は...

養蚕の光五月號にあつた話ですが、二宮尊徳先生が下野の國で開業事業に従は...

南船北馬録

空來山人

二、政戦行

四月十六日の朝、珍らしい好天氣に誘はれて花吹雪散る上野の社を散策遊遊する事凡そ半時、歸宅して朝報を披見する

滿蒙點描

栗栖超

大連ではとうの昔にカン／＼帽が街頭に出た。四日前に新京では白いセーラー服の女學生を見て来たのに何んか、こゝち、ハルではまだセルを着て威張つてゐる娘さん達があるではないか。

（六月七日、ハル鐵路ホテルにて）

齊々哈爾から北へ、北安鎮に向ふ。滿目たゞ草原、草より出て、草に入る、曠

から上田の浦生俊興兄が今著いた所だが菅原君からあなたに朝倉君の事でお願ひしてある事と思ふが言ふが一向何のお願ひも受けて居らぬのみならず私は明日にも出發して全国各地に立候補した知人の應援に行く約束がある。夫れでは是非お會ひして私からお願ひし度いと云ふ。それはお泊りがけにおいで願ひ度いと答へて電話を切つた。

間もなく浦生兄がやつて来て縷々朝倉兄立候補の経緯を語る。靜かに是を聴いて居て如何にも朝倉式だと思つた。然し矢は既に弦を離れてゐる。今更四の五のと言つて見ても何の足しにもならぬ。今日の急務は朝倉兄の立候補をして意義あらしむる方策と同窓生の熱だ。

野を行く列車は、さながら大洋を航行する船舶の如し。國境の町に招かれて此處黒龍江の畔、黒河にやつて来た。僅かに何百米かの向ふ岸、プラゴエチエンスクにはロシアの兵舎が緑の木蔭に點々並んでゐて美しい。呼べば答へん目と鼻の先に軍馬が水を飲んでゐるし、軍用機が低く旋回してゐる。

他所の花は赤いと云ふが何んだか向ふのロシヤ町の方が立派なやうな気がするが川を渡れば殺される。また、婆に未練があるので遠くから眺める程度にしておこう。昨年は芝史汀先生が來られた。草野史郎の「北滿詩行」を思ひ出されるといふと思ふ。

二泊して明後日はハルヘンに向ふ。六月十九日黒河にて

位は此氣持になり切らなければお互に不幸だ。扁狹な獨善主義に囚はれ蝸牛角上に屁の様な事を争つて居たでは恐らく同窓の唯一人その志を達成する事が出来まい。先づ一人でもよい代議士を出し博士を出し議長を出し所長を出し課長を出し度い。二千分の二千が全部その得意の地を獲得する事を熱望するが、せめて一人でもよい一人でも多く衆人環視の地位に就けたい。一人は決して一人でない。正に二千分の一だ。やがて二千分の五となり一〇となり百となる第一歩だ。

朝倉兄の立候補をして餘りの惨敗に終らしめ郷土人の物笑ひの種とならしむる様では爆弾を抱いて火に投ぜしむると同じ結果になる。少くとも託金没収の憂目に會ふ様では獨り朝倉兄の爲めに悲しむ許りではなく全同窓の名譽の爲めに痛恨の限りである。勝敗は兵家の常であり成敗利鈍は敢て問ふところでないとしてせめて吾等の同窓の一員をして徒らに奔馬の勞を爲さしむる勿れ。是が本當の私氣持だ。

直言すれば私は國政に関する限り灰色の中立候補などの應援演説を好まない。立憲政治は政府の與黨と反對黨とが堂々對立して甲論乙駁し豫算を檢討し立法の責に任ずるのが常態だ。況んや非常識で不評判な林内閣などの提灯持は眞平御免を蒙りたいが賑々としてたゞり立つてゐる同窓意識が立ちどころに石川行を決心せしめた。

四月十八日は終日事務所不在中の事務處理を命じ乍ら松村季美、浦生俊興、篠田平三郎、菅原勇治の諸兄と會談し十九日は久方振に信州から上京された長友鹽原克巳君と小談して午後三時〇五分上野發の列車に搭じて一路信州を経て石川縣へ向つた。

都の春は懐しく過ぎて僅かに八重櫻が春の名残りを止めてゐるが春おそき信濃路は櫻と杏の花盛りで遠山の雪を背景に一幅の水彩畫を展開してゐる。それでも

一茶の郷里柏原を過ぎて左手の車窓に妙高山の銀雪を望見する頃になれば山川草木皆未だ冬眠から醒めやらすすがに北國の氣分こまやかに春の女神の訪れには未だ間があるらしい。信越國境附近の白樺林が美しい。

久方振に越後越中の海を見、親不知、魚津、富山、高岡等の會遊の地を車窓に想見し乍ら午後四時五十分七尾線の分岐點津幡へ著し乗りかへて羽咋へ到り、更に私鐵に搭じて能登高嶺と云ふところへ着いた。午後八時からの演説會と云ふのに町内を歩いて見ても立看板もなければポスターも二三しか見えない。定刻には聴衆が續々詰めかけて来るが朝倉候補の一行は少しも見えぬ。九時半過ぎに漸く來着し直ちに開會、半島出身の林耕一と云ふ青年記者に依つて第一彈が放たれた。次で私が演壇へ立つた。林君は「大陸政の行方」と題し私は「革新政治の選良」と云ふ猪坂網堂君の引繼ぎだつた。候補者は「立候補の所信」と題する頗る固いものだ。應援辯士は候補者の演説をし易くしてやる地ならし役だ。それなのに此演説隊は兩者の間に何の連絡もない。極言すれば候補者の演説はゼスチニア演説である上に文化に恵まれない能登の人達にはむづかし過ぎる。手を振り足を踏んぱり前後左右に歩き廻り乍ら時々どんと床板を打ち鳴らして聴衆の居眠りをさますところ運動演説とも言へる。若し自分の演説に共鳴せぬなら投票など一票もなくとも天地神明に誓つて恥ぢぬと力むところだけを聴くと痛快ではあるが自分達は何の爲めに巧言令色して候補者の爲めに投票を懇願するか判らなくなる。その夜おそく宿へ着いてから短刀直入言論の方策と會場の手配について深甚なる考慮を求めた。私は單なるお雇ひ辯士ではない、同窓の一員としてどうか勝たせたい、せめて余りみぢめな負け方をさせたくない。だから御本尊の顔色などに頓着なく直言するを友情と信じてゐる。

床についたのはもう二時近かつた。二十一日には七時半に朝食を済まして高濱を發し穴水を経て佳吉村と云ふところの古寺でやり更に隣村の何やら寺でやり第三回を折柄の大雨を衝いて兜村小學校の講堂でやつた。

二十三日は河原田他五ヶ所に叫び日本一の悪道路で有名な能登の山河を相當年功を経て自動車に揺られ乍ら圍ひ抜いた。候補者の来るまでの「つなぎ」に一ヶ所三時間以上になつた所が時々ある。夜の十一時諸橋と云ふ所を出て穴水を経て和倉温泉に着いたのが朝の三時半、翌朝八時にはもう朝食もそこ／＼に出動すると言ふ有様、此日折悪しく雨となり津幡で三時間近くもつなぎ演説をやり羽咋で一時間半計り頑張つた。

二十六日は宇ノ木小學校講堂で遂に三時間余りのつなぎ演説を余儀なくされ更に隣村の小學校へ行き又候補者の来る迄一時間半熱を上げた。講演と違つて演説となると若干の抑揚頓挫がなければ態をなさぬ。熱して來ると不要と思はるゝ高聲さへ出る。連日のつなぎ演説に聲には相當自信のある私も流石に疲れた。

戦ひの濟んだ三十日の朝、能登半島の北端飯田町の旅館から程遠からぬ蠶業取締所に初めて同窓の竹内直人君を訪ねた。後、一路自動車を飛ばして穴水に出て夫から汽車に搭じて和倉に補候者と袂別し職友だつた林耕一君を同道して津幡より富山直江津を経て信山の峠屋へ歸隊せんとする車中此稿を書く。

ハリ切つて居た氣持が一時にゆるんで聲も出なくなつた。活動後の静寂を求むる人間本然の姿が歸心を矢の如くならしめてゐる。（四月廿日北陸線車中にて）

上田便り

織物生産急増 上田税務署管下小塩

科一市二郡十一年四月から十二年三月迄一ヶ年間の織物生産額は合計四万五千五百三十六點七千九百九十九圓五錢五分

五月市中内織物生産額は御召十三反百廿一圓△縮緬百一十一反七百八十一圓△清尺物四十九反三

市内総生産六百七十六萬圓 市役所勸業課調査昭和十一年市内生産調査は左の如くで合計六百七十六萬六千六百五十五

△農産物一萬三千二百二圓(増四万七千九百六十八圓) △蠶繭繭絲四百三十三萬九千三百六十五圓(増四十四万七千三百

△林産物四萬九千九百九十九圓(減五千三百六十六圓) △畜産物一萬五千七百四十七圓(増

信濃鐵道國鐵に移管 信濃鐵道(松本大町間三・五キロ)は六月一日より國鐵に移管され現在の六町土間と共に大糸

旋の兩勇士飯沼、塚越兩氏は各地各方面の歡迎招宴に引張り、文字通り寧日なき有様であるが郷土長野縣兩縣民の寄せられたる熱誠と厚き聲援とに感謝の意を表する爲めに郷土の空を訪問飛翔する

縣下自動車協會大會 長野縣自動車協會第十五回大會は上小九子兩支會主催の下に六月四日五日上田市に開催された

淺間大噴煙 淺間山噴煙の降灰は上州方面に降るを常としてゐるが六月廿二日の噴煙は珍しく北佐久は勿論上田小縣

上小地方概況 上田蠶取支所調査六月廿五日現在の春蠶況は左の如く著しい桑不足が伺はれる。桑は小縣は兩縣相當

製絲工賃銀値上 物價昂騰に伴ひ製絲工の賃銀値上につき縣では上京中の懸案を併せて協定書に提出を待つ

神風兩勇士來田 長野、松本兩市に舉行される歡迎會出席の爲め入信の飯沼、塚越兩勇士は六月七日別所温泉泊り上田市民の熱誠なる後援に答禮の爲め八日午前八時半自動車で上田市に入り市役所を

信濃上田兩縣絲初取引 縣下春蠶のトツブを切る坂城繭絲の六月十六日の初取引に引續き上田市の信濃上田兩繭絲市場は昨年より五日早く十七日取引を開始した

本縣整理金數二萬三千餘 本縣製絲業組合が今春実施してゐた營業整理の益數整理は六月廿八日を以て終了したが整理されたものは設備金數三萬七千四百餘

上小蠶種製造六分増産 上田蠶取支所管内蠶種家の原種播立數は廿七萬四千五百蠶で前年廿六萬五千蠶に比し一万

製絲工賃銀値上 物價昂騰に伴ひ製絲工の賃銀値上につき縣では上京中の懸案を併せて協定書に提出を待つ

近づく値上實施と見られてゐる。一、職工の賃銀は昭和十二年七月より左の如く支給する事、但し食費は工場主負擔とす。一人一日平均保證賃銀四十

二、食費徴收工場はその徴收食費額を保證賃銀に加算する事。職工食費負擔(辨當持)工場は一日十五錢以上を加算する事。

三、工場法施行細則第廿六條に依り賃銀算出方法變更届を直ちに各工場より提出する事。

菅平と新鹿澤のキャンプサイト 夏の信濃國境にキャンプを招く爲め上田温泉其他の觀光關係者は準備を急いでゐる

煙草專賣所移轉改築 上田市原町の煙草專賣所は國道十號線改修に伴ひ移轉と決定場所は市内祝町權現坂下で工費約六千圓坪數二〇坪で建物は日本風、本年九月中には竣工の豫定である。

川久保橋改修 長野縣馬場郡を結ぶ縣道川久保橋は上信高原の産業開發に伴ひ交通頻繁となつて來たが小縣郡神科村と本原村間の川久保橋は腐朽甚だしく

更なる同橋附近は屈曲が多い爲め交通上支障を來す懼れがあり過般來上田商工會議所始め地元關係村では之れが改修方を縣に陳情中であつた今同架橋工事決定の通知を見た。工費四萬圓のコンクリート橋

と同時道路の大改修も行はれる筈である。

飯沼塚越兩勇士の郷土訪問飛行 鷗程三萬二千餘キロ亞歐の空を征服して今凱

三、工場法施行細則第廿六條に依り賃銀算出方法變更届を直ちに各工場より提出する事。

母校ニュース

製絲對化學職員庭球戰 六月四日午後四時より職員コートに於て製絲對蠶絲化學職員の庭球試合を行ひ左記成績にて化學が勝つた。點數は女子軍である。

一回戰 製絲 化學

- 原、山上3 0 宮下、中澤
山崎、片岡2 3 六川、細川
藤澤、鹽原1 3 田上、今井
鷹野、征矢2 3 櫻井、關田
片岡(金)足立1 3 高野、玉井
二回戰
原、山上3 2 六川、細川
原、山上3 2 田上、今井

上中對母校職員庭球戰 六月五日午後三時より學生コートに於て上中中學職員對母校職員の庭球戦を行ひ左記成績にて母校職員大勝した。試合終了後千曲會館横上に於て茶話會を行つた。

上中中學 本校

- 井本、田中0 3 鷹野、片岡
下島、川勝0 3 石倉、香山
柳澤、清水1 3 岡、野口
福島、芳賀1 3 高野、玉井
田島、龍野0 3 兒玉、櫻井
深谷、龍野1 3 倉澤、六川
高野、田島0 3 佐藤、山崎
全國大學專門學校劍道大會に出場 全國學生劍道聯盟主催第十回全國大學專門學校劍道優勝大會は新築された許りの東京神田國民体育館に於て六月五日舉行され本校よりは平林孝方(紡三)、三原福藏(蠶三)、白井一雄(絲二)の三君が志賀師範に引率されて出場し第一回戰に於て大阪外國語學校と對戦し、二對一で惜敗した。

眼病検査 六月八日〇時三十分より會議室に於て甲田眼醫に依り約六十名の眼病の疑ひある生徒の検査を行ひ三時終

了した。

山田良人氏新任 新綾部製絲に勤務の山田良人氏(絲一八)は此度都合に依り退職され六月八日より母校製絲科に勤務せられる事となつた。

紡織科職員對學生庭球戰 六月十二日午後一時より職員コートにて紡織科職員對紡織科學生の庭球戦を行ひ左記成績にて職員側勝つ。

職員 學生

- 香山、小松3 1 小林(九)小島
岡、山寺1 3 村本、阿久津
櫻井、飯田3 2 平林、白鳥
石倉、中澤3 1 伊藤、高橋
小林、野口3 2 西谷、渡邊
湯原、玉井2 3 鷹取、飯田
東京高蠶生來校 去る六月十六日、東京高蠶養蠶科二年生三十五名は小暮教授に引率されて本校を訪れ、校内參觀後蠶二主催の歡迎會に望み交歡の午前十時の汽車で長野市へ向つた。

紡織科校外實習懇談會 六月十六日午後二時より千曲會館横上に於て紡織科職員二、三年生及一年生の一部出席し校外實習懇談會を開き職員より實習に關する注意、三年生より一、二年生に對し經驗談及注意、學生より職員へ質問注文等があり午後四時散會した。

製絲科一年生見學 製絲一年生は六月十九日鷹野講師に引率され、篠の井繭檢定所、更紗繭絲及坂城繭絲を見學し、篠の井繭檢定所に於ては依田所長の繭檢定に關する講話を拜聴した。

上中對紡織科職員庭球戰 六月十九日午後四時から市營コートに於て上中職員對紡織科職員の庭球戦を行ひ左記成績にて紡織科職員が勝つた。試合終了後上中學校に於て茶菓の御馳走になつた。

- 上中中學 紡織科
林、清水3 2 櫻井、香山
龍野、下島2 3 岡、中澤
伊藤、奈雲0 3 小林、玉井

湯本、林 1 3 湯原、山寺

乾繭實習 絲一は六月二十日から蠶二は廿三日から各二班に分れ、前班は正午から夜十二時迄、後班は夜十二時から正午迄、各々三回乾繭實習を行つた。廿七日晝間大教養養成科の實習を行つた。片岡金一氏榮轉 母校製絲科に副手として約二ヶ年勤務せられ片岡金一氏(絲二)は此度日本加里工業會社に榮轉され御得意の人絹の研究に従事される事となり六月廿三日退職直ちに赴任された。

校外實習生に對する學校長の訓示 絲二は六月十八日午前十一時より第十一教室に於て、蠶二は廿三日午後一時より第八教室に於て、三は廿五日午前十一時より第八教室に於て學校長並に井上教授より校外實習に關する訓示があつた。

絲二の校外實習 絲二は六月廿二日より四週間別記製絲工場又は繭檢定所に依り校外實習を行ふ。

種痘 六月廿四日午後一時より三時迄會議室に於て森醫に依り全校職員備員生徒の種痘を行ひ三十日二時より會議室に於て之が検査を受けた。

上田高女對紡織科職員庭球戰 六月廿五日午後四時より上田高女學校コートに於て上田高女學校職員對紡織科職員の庭球試合を行ひ個人試合では二對三で破れたが優勝戦を行ひ小林玉井組を残して辛勝した。終了後茶菓の接待を受け七時に近き頃散會した。

一回戰 上田高女 紡織科
武井、清水3 1 野口、飯田
榎本、中澤0 3 香山、小松
荒井、深美3 1 岡、山寺
竹内、坪内0 3 小林、玉井
兒玉、小宮山3 1 湯原、櫻井

- 二回戰
武井、清水2 3 香山、飯田
荒井、深見1 3 小林、玉井

三回戰

兒玉、小宮山3 0 香山、飯田
決勝戰
兒玉、小宮山1 3 小林、玉井
上田高女職員對紡織科職員庭球戰の第二回戰を六月廿六日午後四時より本校學生コートに於て行ひ左記成績にて勝ち試合終了後千曲會館横上に於て茶話會を催した。

上田高女 紡織科

- 竹内、清水1 3 石倉、六川
武井、小池3 1 野口、小松
荒井、深美2 3 岡、小林
兒玉、小宮山2 3 櫻井、湯原
中澤、榎本0 3 香山、玉井
山本忠興氏講演 六月廿六日午後一時十五分から二時間に亘り第四教室に於て早大理工科長工學博士山本忠興氏の「オリズムヒツクとテレビジョン」なる講演があり職員學生多數聴講した。

蠶三蠶種製造實習 蠶三は春蠶實習に續いて六月廿六日より蠶種製造實習に入り、佐藤(春)教授指導の下に製造を行ひつゝあり。七月十四日頃終了の豫定である。

軟式野球大會に専交俱樂部優勝 上田毎日新聞社主催第三回上小官公衛會社軟式野球大會は六月廿七日小雨中を市營球場及小學校本校庭に於て舉行され參加は上田署、法曹團(裁判所)、林友(警林署)長野電氣支店、丸子鐵紡、天狗(記者團)征空(飛行場)、那聯合事務所、専交(蠶專備人)、上田驛、逕郵(郵便局)、産光(上田信組)の十二チームにて母校備員を以て組織する専交俱樂部は第一回戰に三A對二で産光に勝ち二回戰には五對三で天狗に勝ち三回戰は二對一で法曹に勝ち決勝戰に於て長電を二對〇で撃破し優勝した。同日のメンバー左の如し。

- (泰) (男) (泰)
谷川井澤井田澤木井田林田木澤
納市今柳今梅關柳青今梅小柴青中

(捕) (一投) (左) (二遊) (右) (三) (中)

一學期終了實習休暇 蠶一は授業は六月廿六日迄、七月一日より廿一日迄休暇八月一日より秋實習である。絲一は六月十八日迄授業、十九日は見學、二十日より廿三日迄乾繭實習、廿四日から三十日迄授業、七月一日から廿一日迄夏實習、八月一日から休暇となる。紡一は授業は六月三十日迄、七月一日から十四日迄繭絲及製絲實習、十五日から休暇となる。蠶二は六月廿三日より廿六日迄乾繭實習、七月十日乃至廿五日より廿五日間校外實習である。絲二は授業は六月十八日午前中迄、廿二日より四週間校外實習、七月二十日より九月五日迄休暇、六日より十一日迄乾繭實習である紡二、三は授業は六月廿六日迄七月一日より廿一日迄校外實習、八月一日より休暇である。教一は授業は七月廿九日迄三十日見學、廿一日機械手入、八月一日より休暇となる。教二は授業は七月十七日迄十九日は機械手入、廿一日より八月十日迄校外實習十一日が休暇となる。

紡織科二三年の校外實習 紡織科三年及二年生は七月一日より廿一日迄各地紡織工場、工業試驗場等校外實習を行ひ八月一日から暑中休暇となる。實習先名は都合に依り省略するが三年金井忠義、本多武爾君の如きは支那迄足を伸ばす。本年は一年の一部も校外實習に出る。

製絲科一年生養蠶實習 製絲一年の養蠶實習は宮坂講師の指導にて七月四日より開始の豫定である。

蠶二の校外實習 蠶二は七月十日乃至廿五日より廿五日間各地の蠶業試驗場、蠶種會社等に於て校外實習を行ふ。實習先及學生氏名は別記の如くである。

教養養成科二年校外實習 教養養成科二年生は七月廿一日より三週間別記の如き製絲工場、繭檢定所に依り校外實習を行ふ豫定である。

- 製絲科一年生養蠶實習 製絲一年の養蠶實習は宮坂講師の指導にて七月四日より開始の豫定である。

製絲科一年生養蠶實習 製絲一年の養蠶實習は宮坂講師の指導にて七月四日より開始の豫定である。

養蠶科第二學年校外實習先及學生氏名

Table listing names of students and supervisors for the second year of the Sericulture Department. Columns include location (所在地), name (姓名), and date (開習月日).

製絲科第二學年校外實習派遣先及學生氏名

Table listing names of students and supervisors for the second year of the Silk Reeling Department. Columns include location (所在地), name (姓名), and date (開習月日).

製絲教婦養成科第二學年校外實習先及生徒氏名

Table listing names of students and supervisors for the second year of the Silk Reeling Education for Women Department. Columns include location (所在地), name (姓名), and date (開習月日).

叙任辭令

Table of appointment and resignation orders (叙任辭令) for various positions, including dates and names.

千曲會館の完備

Article titled '千曲會館の完備' (Completion of the Senjuku Club). The text discusses the progress of the club's facilities, including the completion of the main building and the preparation for the upcoming season. It mentions the involvement of various members and the support from the local community.

蠶絲學雜誌原稿募集

昭和十一年度代議員會の決議により千曲會發行の學術機關雜誌『蠶絲學雜誌』の印刷及販賣を上田市坂井田町生絲の國社猪坂直一氏に委任することとし、就ては第拾卷第一號より一年四回發行に増刊し、之が編輯に關しては更に内容の改善を期し度候につき、特に母校教職員を編輯顧問に推戴し、尙直接關係者として顧問中數名を特ニ編輯委員として之が執筆に當り、又會員有志中より編輯幹事數名が之が責任編輯に當るの陣容を相成候間、本邦に於ける蠶絲及絹絲學雜誌の權威を維持する爲めに左記締切期日御承知の上二層奮つて御投稿被下度此段御願申上候。

- 一、編輯 第一號 五月末日 第二號 六月末日 第三號 七月末日 第四號 八月末日
二、編輯内容 第一號 學術的研究、歐文抄録を附すること
三、資料(研究資料及設備等々)
四、最近蠶絲、絹絲科學及經營科學の狀態(一般)
五、抄録(蠶絲、絹絲、生物、紡織、生化學、機械、纖維等々)
六、蠶絲學雜誌編輯(顧問)(イロハ順)
七、蠶絲學雜誌編輯委員(イロハ順)
八、蠶絲學雜誌編輯幹事(イロハ順)
九、萩原清治、勝又藤夫、香山清和、猪坂直一、山口定次郎(專任)
十、宮坂收(專任)、須田圭二

蠶絲學雜誌購讀募集

別項千曲會學術部より廣告せられました如く、蠶絲學雜誌は内容に一大刷新を加ふると共に發行回数も從來年三回であつたのを年四回に増し、一方誌代は千曲會員は一ケ年二圓(送料共)會員外金三圓といふ事に改めました。而してこれに販賣を小生に一切委任せられ、從來年々多額の缺損を續けて居る本誌發行事業の改善を圖る事となり、就ては紙價印刷代暴騰の意を以て從來御購讀下されし方も勿論、爾餘の會員諸君に於かれても是非も御購讀を得たく切に御願申上げます。申込は千曲會又は上田市坂井田町『蠶絲學雜誌發行所』宛に御願ひ致します。

猪坂直一

本會記事

本會日誌
六月十九日 林理事の尊父御逝去に付電報にて弔意を表す。
六月二十九日 各務同窓會より農産工業化學講習會開催の件通知せらる。
七月一日 夏季校外實習生派遣に付關係支會長に依頼す。

向上資金中へ御寄附

昨年代議員會に於て可決せられたる本會向上資金中へ今般左記の通り御寄附せらる。洵に感謝に堪へず御厚志に對し本紙上を以て厚く御禮申上ぐる次第なり。
一金四圓也 石原 滿洲夫
一金八圓五十錢 小山 俊吾

清水先生記念品贈呈資金寄附者氏名

- 第十回
金壹圓也 萩原 清治
累計金貳百四拾七圓也
昭和三十二年度通常會費納入者
佐谷戸健次郎(蠶) 折茂正太郎(蠶)
小山 庸人(蠶) 山本辰五郎(蠶)
高須兵司(蠶) 鶴田定平(蠶)
野藤 四郎(蠶) 野澤 泰治(蠶)
今井 又藏(蠶) 木間 直三(蠶)
松野 正一(蠶) 工藤 二三(蠶)
黑江 文雄(蠶) 北村 一郎(蠶)
坂原 榮雄(蠶) 小林 國造(蠶)
坂田 肇(蠶) 戸倉 八保(蠶)
堀本 省一(蠶) 小川 保(蠶)
磯野 良知(蠶) 濱井 壽夫(蠶)
中澤 勝也(蠶) 小林 廣(蠶)
加藤 喜一郎(蠶) 久保 正樹(蠶)
松谷 鐵之助(蠶) 塚田 正春(蠶)
青木 針三郎(蠶) 齋藤 格次(蠶)
中山 鐵三郎(蠶) 二宮 九二(蠶)
高橋 義三郎(蠶) 田中 康雄(蠶)
松岡 道也(蠶) 木脇 寅雄(蠶)
田附 由次郎(蠶) 中島 角太郎(蠶)
栗原 章(蠶) 小林 勳(蠶)
野谷 治兵衛(蠶) 小川 二郎(蠶)
糟谷 三郎(蠶) 橋本 武光(蠶)
本谷 良雄(蠶) 窪田 作(蠶)
土岡 光郎(蠶) 細原 石司(蠶)
岩瀬 博雄(蠶) 桑田 庄七(蠶)
中川 善之助(蠶) 日野 光平(蠶)
猪坂 直一(蠶) 勸使 河原保(蠶)
三好 圭一(蠶)
荻野 轍間(蠶)

Table with multiple columns listing names and amounts, including sections for '昭和三十二年度通常會費納入者' and '昭和三十二年度分選會費納入者'.

支會通信

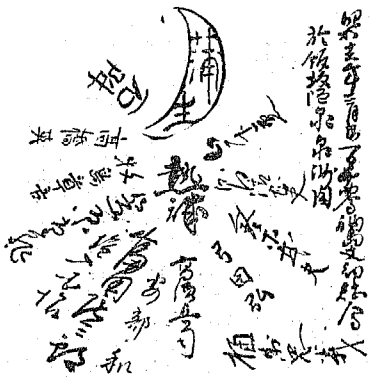
東海千曲會總會

十一月十二日愛知縣刈谷町大寄館に於て東海千曲會總會を開く。出席者は...



千曲會福島支會總會

三月廿一日福島市外飯坂温泉洲間に於て千曲會福島支會總會を開く。出席者は...

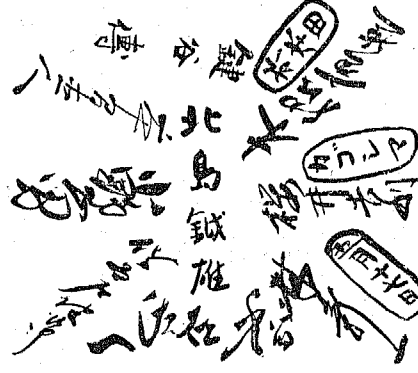


全國農業學校校長會議

昭和十二年全國農業學校校長會議を鹿児島高等農林學校講堂に於て新設満る五月十七日十八日十九日の三日間開催する。

- List of attendees and their affiliations, including names like 佐谷 健次郎 and 稲石 佐一.

會議中當縣、市及商業會議所の市公會堂に於ける招待宴の後當市天文館本館に於て北島先生を加へて懇談會を備したり。



附、校長會議の概要 集まるもの二百餘名にして昨大阪に於ける時は百名位なりしと。

五、滿鮮旅行に對し相當の補助を與へらるること 六、尋卒三年修業の農業學校に現役將校を連に配屬せしめられたり。

襲名挨拶 拜啓 高堂益々御清祥之段奉賀上候陳者私儀今般亡父惣兵衛を襲名仕候間何卒先代同様御願ひ申上度く此段御挨拶傍々御願ひ申上度く如斯に御座候 敬白 昭和十二年六月 元八峰事 戸倉惣兵衛 靜岡縣袋井町

挨拶 猛夏の折から皆様の御健康をお祈り申上度く此度の満洲帝國政府の機構改革に伴ひ現職のまゝに國務院産業部農務司に配屬されしことに御挨拶のほどお願ひいたします。 康徳四年七月一日 出野正雄 新東民路代用官舎二二三號 横山方電話(2)四九二五

新任挨拶 拜啓 酷暑凌ぎ難く候折柄皆々御申上候陳者私儀新統部製絲株式會社御津工場勤務中は厚方ならぬ御介に相成難く御務致す事と相成候間今後共御挨拶御先は乍略儀を賜り度相替願ひ申上候如斯に御座候 敬白 昭和十二年七月 山田良人

會員動靜 (現七月五日)

- 都筑貞吉(現職) (勤) 從前通り(住) 上田市海野町
林 漢龍(蠶一) (勤) 滿洲國新京康徳會館内滿鮮拓殖有限股份公司
朝倉 淳(蠶二) (住) 東京市杉並區東田町二丁目一五〇
野崎 清(蠶四) (勤) 從前通り(住) 東京市杉並區狹間町一ノ一六八
二木 猪一(蠶八) (勤) 山形縣最上郡新庄町、農林省蠶絲試驗場新庄支場(住)
伊藤喜代(蠶一〇) (勤) 新庄町沼田二〇一
加々井精喜(蠶一三) (勤) 宇都宮市彌生町、栃木縣中部養蠶業組合製絲粉木社(住) 宇都宮市西原町下河原一八九(訂正)
竹内善吾(蠶一四) (勤) 盛岡市内丸岩手縣農務課(住) 盛岡市上田組町四番戶
中島角太郎(蠶一四) (勤) 下水内郡飯山町、長野縣蠶業試驗場飯山桑園(住) 勤務先=同
阿部 丈夫(蠶一五) (勤) 長野市吉田町、長野縣立上水内農學校(住) 長野市三輪相木二九七
田口 亮平(蠶一七) (勤) 福岡市、福岡縣經濟部蠶絲課(住) 福岡市外多々良村名島二一九二(名島局前)
瀧口 昇(蠶一七) (勤) 滿洲國奉天省法庫縣初級中學校
北條五郎右衛門(蠶一七) (勤) 北佐久郡岩村町、長野縣蠶業取締所岩村田支所(住) 岩村町西本町
市村志真(蠶一八) (勤) 熊本市南千反畑町九二、片倉郡城工場熊本出張所(住) 熊本市井川淵町一七(訂正)
杉浦卓三(蠶二〇) (勤) 滿洲國奉天省西豊縣公署內務局
小林輝夫(蠶二一) (勤) 南安縣那珂郡那珂町、長野縣蠶業取締所那珂支所(住) 南安縣那珂郡那珂町
石原滿洲夫(蠶二二) (勤) 滿洲國中區海岸通一、一、横濱稅關蠶室部調査課新港分室(住) 横濱市神奈川區高島通二丁目三十番地横濱新與俱樂部内
新野元治郎(蠶二二) (勤) 仙臺市東八番町一〇七、宮城縣是共榮蠶絲株式會社社宅
大山 融(蠶二二) (勤) 滿洲國奉天省法庫縣農務課(住) 勤務先=同
服部 令吉(蠶二二) (住) 岐阜縣安八郡洲本村川口
加藤 昭二(蠶二四) (勤) 愛知縣豐田郡豐田町、愛知縣蠶業試驗場豊川支場(住) 勤務先=同
出野 正雄(蠶二三) (勤) 滿洲國新京、國務院産業部農務司(住) 新東民路代用官舎二二三號横山方、電話(2)四九二五
母袋忠右衛門(蠶二三) (兵) 役、東京市世田谷區、陸軍自動車學校幹部候補生(住) 同
小野 忠(蠶二三) (兵) 役、右同
中澤 忠(蠶二二) (勤) 南佐久郡中込町、愛興社(住) 南佐久郡平賀村
松井清三(蠶二一) (勤) ナシ(住) 岡崎市外矢作町市場五〇
高田茂重郎(蠶二一) (勤) 東京市東區東區大島町八ノ四、日本加里工業株式會社
鈴木康之(蠶二二) (勤) 從前通り(住) 愛知縣南設樂郡新城市八幡九番地
藤井 料(蠶二五) (勤) 保證責任販賣利用組合中豫乾繭農產倉庫(住) 愛媛縣喜多郡大州町八三四
内田 幸成(蠶一六) (勤) 保責任販賣利用組合中豫乾繭農產倉庫(住) 愛媛縣喜多郡大州町八三四
金子新一郎(蠶一七) (勤) 岡崎市、愛知縣繭檢定所岡崎支所(住) 岡崎市久後町郷東
山田良人(蠶一八) (勤) 本校製絲科
大石唯男(蠶一九) (勤) 朝鮮江原道内務部農務課(住) 江原道春川郡春川邑藥司里五〇八
平山俊夫(蠶一九) (勤) 南滿洲國熊岳城、滿鐵農事試驗場熊岳城分場
東家明秀(蠶一九) (勤) 高知市旭町二丁目、高知縣繭檢定所
片岡金一(蠶二二) (勤) 東京市東區大島町八ノ四、日本加里工業株式會社
宮尾行雄(蠶二二) (勤) 從前通り(住) 大津市膳所別保町八八ノ一、東國寮
岡崎 喜(蠶二五) (勤) 滿洲國安東農務課、安東縣梓蠶絲檢査所
唐澤 正(蠶二三) (勤) ナシ(住) 上伊那郡中箕輪村松島
門田 勇(蠶一五) (勤) 從前通り(住) 東京市荒川區三河島町八ノ三、今藤方中澤利子(舊) 敬
春原さと(敬三) (勤) 大分縣宇佐郡柳浦村、豊前製絲場

計報

依田兄を惜しむ

竹内善吾

内心竊かに恐れてゐた依田君の悲報に接して生前特にと言へば少々鳥語がましい話だが少くとも上田の四年間に厄介になつた點では俺は恐らく五指の中だろ



計報を受けて松岡君と相談し又岩村田にゐた中島君から電話を頂いて郷里に於ける送靈の時の打合せやその他色々準備はしたんだが生憎生れて始めての轉任に出會して遂に御厄介になつた俺をして何等追憶の言葉を轉る事の出来なかつたのは誠に申譯無い次第である。

蠶專に入學して校長先生かと思つた和服姿の竹下書記に色々學校の様子をきいて——校長室の北側の階段教室、川瀬先生の化學、原田先生の物理、井上先生の化學皆この室にたつたが——校内を一巡して一年の教室として與へられた第七？（本館二階の一番西の教室）教室に入つた時教室の一番西側の机に色の白い椀無し眼鏡をかけた全くノールな既に學生タ

山崎君かも知れない）聞いたものだった。一年先に入學してゐた關係で校内の事は何としても全く良く知つてゐた、先生と書記の區別も上級生の顔も澤山知つてゐたし色々な人物月且も出来る位であり建物の位置から本當に判つてゐたので茲に總代となつた。

副總代は竹内孝三君（別に選舉した記憶も無いが一年生の時は學校で見立て、呉れたのかしら）全く適材適所であつた。我々ズボラ組のため盛んに試験終了後點を貰ひに良く狂奔してくれた。その點俺は全く依田君の厄介になつたものである。御蔭で落第もせずに済んだのである。一年と二年の英語は和田先生に御教授に預つたのである。一年の時はエミネントア

イサーとかなんと一寸小泉文集のやうなもので、小泉八雲の猫の事かなんかも書いてあるのであつた。二年の時はジョージ、エリオットのサイラスマーナーと言ふやつ、このサイラスマーナーは遂に全部は出来なかつた筈であるが、これが英語——和田先生の——最後と言ふ時間に二年間全く熱のある一心な御教授の御禮にクラスを代表して斷然立つた熱あり衷心より溢れる御禮の言葉に、語る者、聞く先生、クラス生、皆シンミリして涙をすゝる者さへあつた。眞情溢れる總代

依田は特に俺の記憶に判然してゐる。十月第三日曜は母校の校庭運動會である。吾々入學當時學校には矢野昌雄君が例のチン／＼ドンドンチンドン／＼の應援で巾を利かした頃で矢野君が何時も應援團長、應援團員は三年では現台大の小泉清博士、市川清氏、山口完太郎氏、二年は矢野、矢島君、一年は依田、鈴木竹内と言つた顔振れ、所が矢野君卒業後は全く弱つたものである。この時下宿屋の一室で矢野君の應援團長振りを思ひ出し乍ら人知れず練習して矢野君並に水際立つた團長振を發揮して羨望を喜ばし

て呉れたのも總代依田の一面である。前號で山崎君が書いて呉れたが少々手前味喰かも知れぬが我々クラス程所謂マトマリの良い氣分の揃つた學究的でもあつたクラスは余り無かつたさうである。春蠶が済むと野球チームと庭球チームを作つて丸子農商に挑戦したり、常田クラブ、製絲紡績聯合と戦つたりしたものだがチツトも庭球も野球もした事無い

依田君が凡て折衝斡旋して呉れたものである。一年の時、松本地方蠶況視察の時（高橋清七先生引率、田角氏も一所で八木博士が途中から一所になつて色々教へて頂いたり寫眞を撮つて貰つた筈）等、松高の柔道部に多分上田蠶專位の名目で挑戦して相當の成績で負けはしたが一クラスの者丈で一校の柔道部に挑戦するなんて全く空前の事だつたらう。依田君がこれの斡旋につとめて呉れたのは言ふ迄も無い。本當に何から何まで良く奔走して呉れた。だからこそ空前絶後と言ふ程マトマリの良い學究的クラスが出来上つたのである。

野澤中學の博物の先生で依田君を可愛がつて呉れた先生が（山浦とか、出浦とか言はなかつたらうか）確に依田君を生物方面に向はしめた様に仄聞してゐる。その動機は兎も角入學當時既に學生並以上の植物學者であつた。一年生の秋頃から先、樋村君と良く植物を研究してゐたものである。俺も實は百姓をやつてゐる頃（大正八年、九年）講義録を見乍ら田や畑の畔でタンポ、の花等を毀して見た事があつたので幾分氣分が植物に向いてゐたので何時とは無しに二人の仲間入りするやうになつてゐた。

最初行つたのは俺の村の獨鈷山だつたらうか。養蠶實習中午後出て山へ登り遂に靈泉寺温泉に下りて一泊して十時頃學校へ来たやうに記憶してゐる。随分酷い事をしたものである。エゾスミレの珍品を得て本當にうれしかつたものである。次は殿城山、ニホヒスミレを目指して

行つて遂にこれは採集出来なんだ。樋村君と依田君と俺であつた事は言ふまでもない。瀧山へ行つたのも午後實習を少々早く切り上げてだつた。

青木の小學校に吉川とか言つた依田君の知つてゐる先生が来てこれを訪ね案内して頂いてクルマニリ、ウスバサイシン（これがあるからギフチヨウがあるんだらうなんて蝶の事まで教へてくれた）イタリヤカヘデ、アサノハカヘデなんて教へて貰つたものだ。番掛温泉に行つて石芋（ハツ頭、弘法大師の傳説のもの）を見て夕食をやり夜十一時頃歸つたが番掛から自轉車で三人元氣よく風を切つて歸つた事が本當にハッキリ覚えてゐる。

子檀岳へ行つたのも午後の實習中途からだつた。この時は俺と二人きり夕立のする中を駆け足で登つて遂に佐久を望んで（頂上へ行つたら少し露れて来た）色々地理まで教へて貰つた。イワカミが澤山あつたものだつた。鳥帽子ではムシトリスミレ、全く色々教へてくれた。

一番印象的なのはこれは兼々養蠶の上簇休を利用して美ヶ原登山である。勿論依田、樋村、俺の三人である。七月二日だつたか三日頃だつたらう、當時依田君は木下町の程から北へ入つた下宿にゐて一應前に相談して置いて置いたんだが丁度朝から雨降りて七時頃漸くやんだので依田君の下宿へ樋村君と三人で集つて相談し結局登山する事に一決して樋村君と俺とは直に歸宅の上準備をして

米一升に水も一升許り纏詰にし野菜、防寒具、採集用具で六、七貫以上もあつたらう、重いリツクサツクを背負つて三人元氣よく丸子驛で落合ひ雲間に隠れる美ヶ原を望んでワク／＼胸を躍らせたものである。

ジャノメ、ヒカゲ、ヒョーモン等の蝶や、マタタビ、ヤナギラン、セントクツシ一等々研究したり教へて呉れたのがなつかしい。

山の中腹で飯盒炊事して依田君からはコンドビーフやグリーンピースやドロツプスや色々御馳走になつたものであ

田君のこうした色々な珍らしい御馳走に預つたもので特に俺が依田君に寄生した部分は並大抵ではなかつたのである。本當に植物の採集指導から昆蟲の名前まで一々丁寧に親切に教へて貰つたり色々とお馳走に預つたり厄介になつたものだ。

こんな譯で依田、樋村と俺は相當熱心に植物の研究をやり山崎君は動物を研究してゐたしその他クラス全体が非常に學究的でもあつたので職員の話會に對抗と言へばおかしなが生物研究會と言ふのを發會して浦生先生や今は亡き樋口さんの全中の御援助御支持を得て盛んに發表會をやつたものである。これも勿論依田君の斡旋奔走に負ふ所最も大であつた。

吊慰金募集

故依田彌亮氏（蠶十四）に對する吊慰金を前月に引續き募集致します。右吊慰金は八月末迄に取集め御遺族へ贈呈致し度いと思ひますから夫れ一併に合符振替口座東京四三三四拂込下さい。昭和十二年六月 千曲會

吊慰金報告

故高森行雄氏吊慰金報告第三回 右合計金貳圓也 齋藤藩之作、長谷川任三 右合計金貳圓也 因みに前月號本欄累計金拾七圓五拾錢也 尚本吊慰金は去る五月末日を以て締切の管の處期限後送金の向あるを以て便宜上来る七月末日まで締切延期可申候 故依田彌亮氏吊慰金報告第二回 金貳圓也 黒澤製薬、安川 寛 金壹圓也 中島 茂、山本友之 右合計金六圓也 累計金五拾九圓也

林理事よりの禮狀

前略 父林長十郎儀永らく病氣の處藥石其の効無く去る十八日死去仕候際係御懇篤なる御弔電に接し御芳情の程遺族一同感銘に不堪茲に謹て厚く御禮申上候、先は右旨略儀以書中不取敢御禮の御挨拶申 述度如斯御座候 敬 具 昭和十二年六月二十一日 林貞三 林長治 千曲會御中 男

暑中御見舞
昭和十二年盛夏
上田蠶絲専門學校
山寺 豊一

暑中御見舞
昭和十二年盛夏
上田蠶絲専門學校
野口 新太郎

暑中御見舞
昭和十二年盛夏
上田蠶絲専門學校
清水 保

暑中御見舞
昭和十二年盛夏
上田蠶絲専門學校
小松 忠一郎

暑中御見舞
昭和十二年盛夏
上田蠶絲専門學校
宮下 丈夫

暑中御見舞
昭和十二年盛夏
上田蠶絲専門學校
湯原 諄

暑中御見舞
昭和十二年盛夏
上田蠶絲専門學校
高橋 眞澄

暑中御見舞
昭和十二年盛夏
上田蠶絲専門學校
小林 尙一

暑中御見舞
昭和十二年盛夏
上田蠶絲専門學校
飯田 喜雄

暑中御見舞
昭和十二年盛夏
上田蠶絲専門學校
磯村 敏子

暑中御見舞
昭和十二年盛夏
上田蠶絲専門學校
關 かほる

編輯室より
△暑中御見舞の申上げます
昭和十二年七月盛夏
千曲時報編輯部
細 茅 香 山 野 野 川 野 誠 清 豊 功 一 和

△竹内善吾氏の「依田兄を惜しむ」も木
通眞熊氏の「全國農業學校長會議」も昔
の紙に載せた。今後は原稿紙に十八字詰
に書いて戴き度い。更に木脇氏の片假名
書も平假名に願ひ度い。
△原稿紙を請求して来られる方がボツ
ては無いが、之は決して送らないと云ふ
紙へ十八字詰に書いて欲しい。と云ふの
は原稿の送料は第四種で三錢であるが原
稿紙となる小包の取扱を一人の寄稿
量が多いものは未だよすが本紙の如き
かの原稿紙を送る場合に十錢を費す事
は原稿の値段より送料の方が遙かに高
なり無駄な事であるからである。
△時報の未着を直ちに云つて来られる方
はそれと本紙に關心の深い事を示すも
で大いに感謝してゐる次第であるがそ
の中、随分激烈な文句で苦情を申込まれ
らその實、勤務先住所の移動手續を執
られてない方が屢々見受けられる。自ら
移動は速かに勤務部へ通知して欲しい。
母校内の誰か一人に通知した丈では充分
では無い。勤務部に代つてお願ひして置

投稿規定
△投稿規定にもある様に投稿の場合には
編輯部へ又は姓名を通知して欲しい。第
一面所載「科學は獨占を破る」の鳥頭氏
は姓名の御通知が無かつた。規定違反は
没書と云ふ様に拘り規定にも行かない所
に編輯部の憤みがある譯である。

投稿規定
一、内容は不問、平易なる學術研究、會
員消息に關する物は特に歓迎。取捨
は當方に一任せられたい。編輯の都
合に依り全部又は一部を來月廻しと
する事がある。
一、原稿は特に豫め申込無き限り返戻致
しません。
一、締切は毎月六日限、特に一月號は一
日發行とする爲め二十日限とする。
一、原稿は開封し三錢切手(第四種百二
十瓦)迄を貼布して送附し通信文が
あつたら別に葉書等にて通知される
が得策である。
一、必ず原稿紙を使用し明瞭に普通平假
名でお書き下さい。又文句讀點を必
ず施して一字分の間隔を置いて下さ
い。

廣告規定

| 寸法 | 期間 | 一月 | 六月 | 一年 |
|-------|----|--------|---------|---------|
| 一頁 | 一月 | 1,000円 | 5,000円 | 10,000円 |
| 1/2頁 | 一月 | 500円 | 2,500円 | 5,000円 |
| 1/4頁 | 一月 | 250円 | 1,250円 | 2,500円 |
| 1/8頁 | 一月 | 125円 | 625円 | 1,250円 |
| 1/16頁 | 一月 | 62.5円 | 312.5円 | 625円 |
| 1/25頁 | 一月 | 31.25円 | 156.25円 | 312.5円 |

但し本會員は七掛とす。

優良蠶種豫約募集
昭和十二年度秋、晚秋蠶種
×國蠶支一〇七號
×國蠶支一一一號
×龍華 江仙
×龍華 江仙
昭和十三年春蠶種
×國蠶支十九號
×國蠶支十九號
×國蠶支一九七號
×國蠶支一〇七號
×龍華 江仙
×國蠶支十六號
優良品種、適地分場、設備完全
廣島縣御調郡興村綾目八六
蠶種業 小川 保
電話市村局一〇一番
振替(廣島)二四六番
振替(大阪)三三三番
電報別便配送料不要

種!熊本長野

2597 春蠶

富量豐卵

定安作蠶

富量豐繭收

良優質絲

| | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 國蠶日一〇七號 | 國蠶日一一一號 | 國蠶日一九七號 | 國蠶日一九七號 | 國蠶日一九七號 | 國蠶日一九七號 |
| 國蠶歐一〇七號 | 國蠶歐一一一號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 |
| 國蠶歐一〇七號 | 國蠶歐一一一號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 |
| 國蠶歐一〇七號 | 國蠶歐一一一號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 |
| 國蠶歐一〇七號 | 國蠶歐一一一號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 |
| 國蠶歐一〇七號 | 國蠶歐一一一號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 | 國蠶歐一九七號 |

會照御他其績成驗試
候上申報速第次

五〇六町江大市本熊
組 種 製 野 長
番 八 九 五 話 電
番 〇 〇 三 二 本 熊 替 振